

私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。

コロサイ4:3

2014(26)年 週 報

11月9日
第2聖日
3377号

「大宣教命令」

聖言

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしは天においても、地においても、一切の権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。」マタイ28:18, 19

礼拝の恵み 第一八章 第七節 礼拝の仕方

第一節 礼拝は霊的であるべきである

ある人は偽善のことを、「我らがそうであろうと欲しないのに、そうであるふりをする。」ことであると定義している。「まこと」と言う言葉「sincere」は「蠟がはいっていない」と言う意味である。昔彫った石像に裂け目があるとそこを蠟でつめることがよくあった。買った人がこの石像を日光にさらすと蠟がとけて裂けているのが暴露してしまう。それで石像を扱う人は自分の品物は「sincere」すなわち「蠟なし」と言明した。こうして売り手は買手に、虚偽も口実もないことを保証した。ピリピの信者たちについてパウロの願いは彼らが「キリストの日には純真で非難されるところがなく」(ピリピ1ノ10)であった。神は偽りの無い心の偽りのない礼拝をもとめたもう。

イスラエルの歴史も我らに礼拝に真実が欠けているのを神はどうご覧になるかの一例を供している。旧約の最後の書に神はその預言者マラキを通して「あなたがた言う。『どのようにして、私たちがあなたの名をさげすみました。』と。あなたがたは、わたしの祭壇の上に汚れたパンをささげて、『どのようにして、私たちがあなたを汚しましたか。』と言う。あなたがたは、盲目の獣をいけにえにささげるが、それは悪いことではないのか。あなたがたは、掠めた者、足なえたもの、病気の者を連れて来て、ささげ物としてささげている。わたしが、それをあなたがたの手から、喜んで、受け入れるだろうか。」(マラキ1ノ六〜一二)

(Apギブス「礼拝」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年一月二日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「真の福音」

「こういうわけですから、私たちが主イエス、キリストを信じたとき、神が私たちに下さったのと同じ賜物を、彼らにお授けになったのなら、どうして私たちが神のなさること妨げることができません。人々はこれを聞いて沈黙し、『それでは、神に至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ。』と言って、神をほめたたえた。」(使徒二一ノ一七、一八)

一、差別を取り除く神のことは

カイザリヤという港町にイタリヤ隊のコルネリオというローマの一〇〇人隊長の部隊が駐屯していました。彼は神を恐れる敬虔な人物でユダヤ人に多くの施しをして、いつも神に祈りをささげていました。午後三時ごろ祈りをささげていた時、御使いが現れ「あなたの祈りと施しが天の届いた。ヨッパの皮なめしシモンのところにいるペテロを招いきなさい。」と言いました。彼は三人の部下をヨッパに遣わしたので、そんなことは知らないペテロはシモンの家の屋上で祈っていました。空腹を覚えてうとうととしました。すると幻の中で這うもの、野獣、空の鳥が天から吊り下ろされてきて食べるように言われました。ユダヤ人は汚れた動物は食べません。豚は食べません。たこ、うなぎも食べません。そんなことが三度もあり目が覚めたのです。そのことを思い巡らしている時、コルネリオが遣わした三人が訪ねてきた。ペテロに聖霊が「見なさい。三人が尋ねてきています。彼らと一緒に行きなさい。彼らを遣わしたのは私です。」言いました。ペテロは下に降りて、用件をたずねると、「コルネリオがあなたを招いて話を聞くように」と聖なる御使いのお告げがあったとのこと。ペテロは幻の夢の意味は、汚れていると考えている外国人も神はきよくしてくださいということ。そのために、神の言葉を伝えなければならぬこと。その使命を私がおこなうのであることを悟りました。早速彼らと一緒にコルネリオのもとにいくと、コルネ

リオはひれ伏してペテロを拜もうとしたので、同じ人間であると差別の壁を取り払いました。それとともに、ユダヤ人は外国人と交わるのは律法に禁じられている。しかし、四日前に祈っている「神がきよめた物を汚れているといっているなら、神は示してください。お迎えを受けた時ためらわずに来たのです。と説明しました。それとともにペテロは「あなたがどういうわけで私をお招きになったのですか。」とたずねると、コルネリオは「二日前の午後三時の祈りに天の使いが現れ、『あなたの祈りは聞かれた。ヨッパの皮なめしシモンのところにいるペテロを招くように。』とつげられました。」と語りました。ペテロはこれ聞いてはつきりと神が外国人に差別の壁を壊されたことを分かりました。「どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるのです。」(10:33)。神の言葉は民族の壁を壊して、神を恐れ、神の前に義として生きるのを捜しておられるのです。

二、罪を取り除く神の言葉

神の言葉はイエス・キリストの救いを語るのです。

神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にみことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすべての人の主です。あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事柄をよくご存知です。それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神が共におられたので、巡り歩いて良いわざをない、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムとで行なわれたすべてのことの証人です。人々はこの方を木にかけて殺しました。しかし、神はこのイエスを三日目によみがえらせ、現われさせてくださいました。しかし、それはすべての人々ではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちにです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられて

後、ごいっしょに食事をしました。イエスは私たちに命じて、このイエスこそ生きている者と死んでいる者とのさばき主として、神によって定められた方であることを人々に宣べ伝え、その証しをするように、言われたのです。イエスについては、預言者たちもみな、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられる、とあかししています。」(使徒 10:36-43)。神

はイエス・キリストによって神と人の間に平和を結んでくださいました。神の御言葉は差別を取り除くだけでなく、当時はローマ皇帝カイザルが主である。神であるとされていたときに、命がけでイエス・キリストがすべての人の主です。と語りました。パプテスマのヨハネはイエスを見て「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29)と証ししました。神はこの方に聖霊と力を注がれイスラエルの民に癒しと不思議を行い、悪魔に制せられていない人を解放しました。しかし、イスラエルの指導者は一点の罪の背き、知恵の実を食べて神の如く賢くなろうとしただけでなく今度は神の言葉そのものであるお方を殺してしまっただけです。なんと愚かであり、絶望的な行為でしょう。しかし、神は3日目にイエスを死からよみがえらせました。神の言葉は偏見をとりのぞくだけでなく、死から生命へ、絶望から希望をもたらします。ペテロはその証人です。霊は食べることはできません。しかしイエスのよみがえりの体は食べることも、触れることも出来ました。このお方は生きているものと死んでいる者を裁かれるお方です。すべての人間を呼び出し、善をなす者に善に報い、悪をなす者に悪を報います。死んでいる者とは生きていて霊的に死んでいる者も含まれます。しかし、よみがえられた主があらわれてくださったのは主の弟子だけです。信じない人にはあらわれてくださいませぬ。しかし、2、3人なら幻影を見たとき疑われます。主の甦りはペテロたちだけでなく、5000人の弟子に同時に現れてくださいました。どうして幻影であると批難することができずしょうか。ペ

テロがこのことを話しているとコルネリオたちの上に5旬節のときと同じように聖霊が降臨して彼らは聖霊に満たされ異言を語り始めました。それで、ペテロは彼らにパプテスマを授けました。イエスの言葉は人間を罪から救い、新しい聖霊の人と変えてくださいます。

三、神の言葉の橋渡し

神の言葉を宣べ伝えるのは牧師、宣教師、伝道師だけがするのではありません。神の言葉は差別と偏見を壊し、十字架の神との和解を行なうとともに、私たちを通して神を知らない人の神の言葉とするのです。あなたが嬉しそうに教会に行く姿をみて「なぜ、いつもたのしそうなのですか。教会に素晴らしいことがあるのですか。」とたずねられるとき、その秘密を語るのです。これが神の言葉です。「なぜ、家庭の中に不幸が続き、あなたも病気でどうして、そんなに冷静にできるのですか。」と友人に訪ねられるとき、甦られたイエスが常にいてくださることを証しするの神の言葉です。それが真実の証し人です。あなたが教会に来られることこそが神の言葉です。

二〇一四年一月五日午後七時 祈禱会 山本牧師

「君主たちの哀歌」(エゼキエル連講三〇回)

「火がその枝から出て、その若枝と実を焼き尽くした。もう、それには、王の枝となる強い枝がなくなる。これは悲しみの歌、哀歌となった。」(エゼキエル一九ノ一四)

雄獅子の中に伏す雌獅子とはバビロンとエジプトの間にあるイスラエルのことである。若い獅子はヨシヤの子エホアハズであり、もう一頭の若い獅子はエホヤキンである。ユダ王国最後の強い枝であるゼデキヤは王国を滅ぼした。しかし、エッサイの根株から出た若枝は実を結ぶ(イザヤ一一ノ二)。「主は、あなたの力強い枝をシオンから伸ばされる。」(詩篇一一〇ノ二)力強い枝とは主イエス様です。このお方こそ永遠の神の国を建て上げられる。(鷹取著エゼキエル書参考)